

令和6年度淀川区区政会議第1回安全・安心なまち向上部会議事要旨

日時：令和6年6月3日（月） 午後6時30分～午後8時03分

場所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・ 委員9名（9名中）
足立委員、大西委員（オンライン参加）、河野委員、佐々木（健）委員、佐々木（昌）委員、寒川委員、杉原委員、田中委員、前原委員
- ・ 区役所
岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、山田市民協働課長、高山市民協働課相談調整担当課長代理、山川保健福祉課長、笠原保健福祉課福祉担当課長代理、瀧谷政策企画課担当係長ほか

内 容：

1. 開 会
2. 令和5年度淀川区運営方針（振返り案）について
3. 区政会議におけるご意見への対応方針について
4. 個別テーマごとの意見交換

資 料：

【当日配付資料】

- ・ 次第
- ・ 配布資料一覧
- ・ 区政会議部会名簿、座席表
- ・ （資料3）個別テーマごとの意見交換について
- ・ （資料4）災害時の情報伝達について
- ・ （資料5）災害に備えた備蓄促進のための啓発や情報発信について
- ・ 淀川区防災マップチラシ
- ・ 淀川区防災LINEチラシ
- ・ 大阪市防災アプリチラシ
- ・ よどマガ！6月号
- ・ ご意見票
- ・ 淀川区区政会議 日程調整表
- ・ 返信用封筒

【事前配付資料】

- ・(資料1) 令和5年度淀川区運営方針(振返り案)
- ・(資料2) 区政会議におけるご意見への対応方針

1. 開 会

2. 議題

(1) 議長・副議長の選出

佐々木(健)委員を議長、佐々木(昌)委員を副議長とすることに決定。

(2) 令和5年度淀川区運営方針(振返り案)について

○令和5年度淀川区運営方針(振返り案)について区役所より説明
意見なし

(3) 個別テーマごとの意見交換

- ・前回の安全・安心なまち部会におきまして、身近なテーマや御自身が興味を持つテーマについて、自由に意見交換をしていただきました。

前回の部会におきまして出ましたテーマをまとめさせていただいたものが、資料3の個別テーマごとの意見交換についてに記載しております。

前回の部会でテーマとして挙げた中から、今回は区役所でテーマを決めさせていただき、現在の取組をお話させていただきます。その後、安全・安心なまち部会として意見交換をしていただければと考えております。

本日は災害時の情報伝達についてと、災害に備えた備蓄促進のための啓発や情報発信について、この2つのテーマの取組につきまして、区役所の担当課から続けてお話をさせていただきます。(瀧谷政策企画課担当係長)

○担当より「災害時の情報伝達」及び「災害に備えた備蓄促進のための啓発や情報発信」について説明

主な討議内容

- ・備蓄に関しまして、災害のときの備蓄ということであるんですけども、その辺の確認が防災訓練のときなんかに行われてるんですけども、要は、平時のときに定期的に確認できるような日を決めてやるようなことも考えた方がいいんじゃないかなど。今のところ自分の記憶しているのは、年1回程度の話なんですけれども。だから定期的に確認する、あるいは保管者との連携をどういうふうに持っていくかということ、日頃検討できるような席が欲

しいなというふうに感じます。(杉原委員)

⇒各避難所、小・中学校にあります物資につきましては、年1回の確認です。足りないものについては補充していくという形を取ってます。区役所についても同じように年1回です。

地区備蓄拠点につきましては、大阪市が管理しておりますので、そちらについては区役所として確認はしておりません。ですので、年1回でいいのかとかいう部分については今後検討していきたいなと思います(山田市民協働課長)

- ・資料2で、杉原委員が質問されたところなんですけど。杉原委員の意見の中に、区役所の災害時の組織体制はどのようになるかを把握したいという質問に対し、区の回答といたしましては、市災害対策本部への救援物資の要請という回答があるんですけど、これに重ねるような質問で申し訳ないんですけど、当地域のことにもよるんですけど、うちの地域の備品も備蓄も管理しているんですけど、パーティションというのが1つもなくて、そういった物もし災害が中長期にわたる場合、市役所なり行政からパーティション、プライベートを確保するための仕切りですよね、そういったものを貸与されたりはしてもらえるのかどうなのか。また、それを当地域で購入するにあたって、そういった助成金等は下りるのでしょいか。(寒川委員)

⇒パーティション、区切りというか、そういったものについてなんですけれども。この資料5の別紙に、区役所内の備蓄物資一覧の中に、右の列の上から11行目がワンタッチパーティション。下から数えて5番目、6番目、テントということで、一応何かはあるんですけども、到底全避難所に対応する数は区役所として備蓄はしていません。

大阪市全体としてパーティションというのは、拠点物資の拠点のほうにはいくらかはあるんですけども、早いもん勝ちになったりとかするかもしれません。これをどんどん区役所のほうで増やしていく、どこかでその場所も含めて確保して、備蓄していかないといけないなという意識はございますので、こんな数では足りないという意識はありますので、もう少しお時間をいただいて、増やす努力はしていきたいと思っておりますのでお願いいたします。(山田市民協働課長)

- ・津波の場合、今現在何メートルを想定されてますか。大体4、5メートルというような話を聞くんですけども。

その場合、そこへ避難するにあたって、どの場所がいいかというのか、その場所の確保は、十分間に合っているのでしょうか。(河野委員)

⇒津波が来ると想定の高さというか、淀川区内でも西のほうと東のほうでは確かに異なります。塚本、新北野、田川というところと、新東三国とか新大阪

駅、北中島とは違うんですけども、高いところで2、3メートルはあったと思いますので、そこよりも高い津波避難ビルというところについては防災のハザードマップ等々でお示しはさせていただいております。

その人数で足りるのかということなんですけれども、確かにその住んでいる町会の中で足りるかということになりますと、場所によっては足りないと思います。ですので、隣の町会、隣の連合も含めて、隣町まで見て、どこに津波避難ビルがあるのかというのは、各自確認をしていただいて、それはある意味防災の備えということになります。(山田市民協働課長)

- ・大阪市防災アプリの中で、実際に災害が起こった場合にこのアプリというのは、マナーモードにしても何かブザーが鳴るような機能はあるのでしょうか。(大西委員)

⇒この防災アプリについては、ブザーは鳴らず、通知が出るというスタイルです。画面を見ないと、確かに気付かないと言えれば気付かないですけれども、災害が起きたときには、エリアメールが鳴り、そこを見たら通知が来ていますので、そこで見ていただけるかなということを期待しています。(山田市民協働課長)

- ・スマートフォンを持っていない方たちはどうされるのでしょうか。(佐々木(昌)委員)

⇒スマートフォンをお持ちでない方につきまして、災害時の行政からの情報というのは、先ほどの横の一斉配信のイメージ図でいきますと、ケーブルテレビのテロップとか、防災行政無線、要するに防災スピーカーからの情報だけになります。(山田市民協働課長)

⇒そういう方については、情報を持っている方と連絡を取り合うような、自分なりの手段を事前に見つけ取っていただくというのが大事なかなとは思っています。

だからアプリを使える人に、何かあったら教えてほしいというのを、災害が起こる前から関係性を作っておいていただくとか、そういうことをちょっと我々としては期待しています。何も分からないということじゃなくて、自分が何か困ったときに、頼れる人を日頃から見つけておいてくださいという、そういうお願いです。(岡本区長)

- ・防災アプリについて、緊急時に皆さんが一斉にこのアプリを開いて使用したときに、アクセス制限的なものがかかったりはしないのかなと思ひまして。北大阪の地震のときに、私は息子が高校生だったんですけども、心配でちょっとLINEで連絡を取ろうと思ったときに、混線していて連絡がつけられなかったんですが、どうでしょうか(前原委員)

⇒アクセス制限は大阪市とか大阪府全体にもかかるのですが、携帯電話会社が

開放する、順番としていの一番に開けていただけるということは聞いています。しかし、実際にそうなったことがないのですが、理論上はつながります。

(山田市民協働課長)

- ・ 備蓄の話になってくる際にこれだけありますよというデータはいつも出てくるんです。そのときに絶えずこれだけでは足りませんというのを、1行、区役所からこの話をするときに一筆入れといていただければ、みんなもっと備蓄しようという気になるのではないかなと思うんです。

到底、今、小学校にある備蓄の飲料水では足りないというのはもう目に見えてるので、個人で備蓄してくださいというようなローリングストック法とかもありますよというようなことをPRしてるんですけど、実際、一般の方々というのは、避難所に行けば何でもあるみたいな感じのところがあるんで、その辺のところでは言いづらいこともあると思うんですけど、到底足りないってというような言い方はできないと思うんですけど、備蓄量にも限りがあるとか何とかってというような文言が必ず付けていただかないと、地域のほうでも、やっぱりその辺が少ないっていうことは、これから伝えていかなければいけないんで、歩調を合わせてそういうふうなことを進めていけたらなと思うんですけど、どうでしょうか。(佐々木(健)議長)

⇒確かに、1避難所単位で言った場合、避難所を開設してすぐとなりますと、先ほど資料にお渡しした数量しかありませんので、その地域内にお住まいの方の何割かが避難するだけで足りなくはなりません。

そこで行政的には、区役所があります、避難者の少ないところがあります、あと地区のほうで備蓄倉庫であるということで、大阪市全体としては約53万人の人々が必要最低限の水、食料が3日分を大阪市内で散りばめて保管を備蓄している状態なので、確かに西淀川区と淀川区だけが被災があつて、南のほうから運搬するということが可能であれば、確かに、理論上は備蓄は足るということになるんですけど、大災害の場合は大阪市全体がそうなりますので、日頃から蓄えをよろしく願いますということ、区役所のホームページ等々には、大阪市全体としては足りていると書きながら、決して多くはありませんということで、ホームページのほうには掲載させていただいております。

今後ことあるたびに掲載させていただいて、周知し、ローリングストック法、各御家庭で水、食料を保管していただくような案内はし続けたいと思います。(山田市民協働課長)

- ・ 別紙2の淀川区役所の備蓄のトイレ、消耗品というのは何ですか。(佐々木(昌)委員)

⇒ビニールとか凝固剤とかの、セットになっているものです。

名称によって、言葉が違っていても大体同じような。それ用の専門のビニールとか凝固剤とか、いわゆる水洗トイレが使えないとかいうときに、よく避難所で見かけると思うんですけど、ビニール袋を使用して、凝固剤で固めてゴミで捨てるということです。（高山相談調整担当課長代理）

・この中に、高齢者用のお尻拭きなどはありますか。（佐々木（昌）委員）
⇒基本はトイレットペーパーで、子ども用の紙オムツは確認はしたことがあるんですけど、確かに、お尻拭きがないと、子ども、オムツをしているお子さんは大変ですので、後ほど確認しておきます。（山田市民協働課長）

・市の防災マニュアルというのを拝見し、今回いただいた回答と照らし合わせてみましたら、平時、いわゆる実際にこういう災害があつてからの準備、目的とした準備じゃなくて、平時にどういうことをやっていったらいいのだろうかということが、一番頭にくるんだらうなと思います。

住んでいる人の意識をどういうふうに持っていくかというところで、アンケートをするなり、世帯調査をするなりしまして、その中で自主防災組織をどういうふうに立ち上げていくか、認知してもらふかというところが、今まであんまりできてないので、その辺が課題になってくるのだらうなと思います。それによって、その地域の防災マニュアルというものが作られてきて、それを全体ですり合わせてまとめていくというところが、今後の課題になっていくんだらうと思っています。

その中で、最終的に大阪市の危機管理本部を先頭に、地域の取組との連携で物事は動いていき、我々はとりあえずその辺のところを整理していかないと、いうふうに感じた次第です。（杉原委員）

⇒住民意識、住んでいる方への意識の啓発というのは、すでに少しずつ行つてはいますが、区民アンケートからも、見るからに意識が変わつたつていうことにはなつてはいません。しかし、備蓄というのも、本当に備蓄していますという質問から、何日生活できますかとかということにしたら、やっぱり数日間は買い物に行かなくても、食べれるとなると。それはある意味、備蓄ではないのかというのもあつて、常に少し多めに食料を置いとくというのが、こちらからのお願いです。（山田市民協働課長）

⇒自主防災組織なんですけれども、基本的には各連合、今、組織はされています。それがどう住民の方に伝わっているのかというのは、各地区、地区によって違うと思います。それを皆さん認識できるように、もちろん地域の防災訓練なんかも、ある意味自主防災組織である地域活動協議会であつたりとかいう形でやっておりますので、名称として、〇〇地域自主防災組織と名乗つてはいないんですけども、私たちとしては自主防災組織だと認識しているのが18地域あります。あと、地区防災マニュアルから、各地区へ落とし

込んだ防災計画も、去年から改定を各地区のほうで順番に行っています。(山田市民協働課長)

- 全ての防災に関することばかりを議論してるんですけど、防犯とかそういった関連は、この会議では話し合えないんですか。(寒川委員)
 - 防災にこだわってはいないので、意見として挙げていただければと思います。(佐々木(健)議長)
 - 市民の人たちが、写真を撮って、LINEなどを使って通報すれば、それを受け取った大阪市が、順次補修をしてくみたいなシステムがあるのかなと思ひまして。そういうアプリというかLINEというのがあるのかなと思ひまして。そういうのって結構利用率とかは分かるものなのですか。(大西委員)
- ⇒あります。利用率とかは現在分かりませんが、建設局のホームページで「おしえ太郎」という名前で、例えばスマートフォンのカメラ機能とGPS機能を利用してその情報を送りましたら、大阪市の部局が確認して、修理・修繕等を行うという制度はございます。(山田市民協働課長)
- そういうアプリというかLINEの周知などを議論してはどうでしょうか。(大西委員)
 - 別の備蓄品がないかどうかということも含めて、備蓄品の内容の検討というの必要ではないでしょうか。(足立委員)
 - 大西委員から御提案のありました、「おしえ太郎」を中心としたその辺の情報についてと足立委員から御提案のありました、もう少し備蓄として、何か不足しているものはあればというようなことで、今回はこの2つを中心にテーマとして御提案ということで進めていただくようにします。(佐々木(健)議長)